

障害者歯科学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	野本 たかと（障害者歯科学）

学習目標 (G I O)	将来、障害者地域歯科保健・医療に関与した時、その課題を解決するための基本的能力を修得する。基本的能力として、障害者歯科の基本理念、障害に関する医学的基礎知識と歯科診療上の配慮および障害者地域医療に必要な社会歯科学的背景を理解する。
担当教員	野本 たかと、田中 陽子、梅澤 幸司、伊藤 政之、林 佐智代
教科書	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科学 日本障害者歯科学会編集 医歯薬出版株式会社
参考図書	障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎、緒方克也、向井美恵 編著 医歯薬出版株式会社 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 向井美恵、山田好秋 編 医歯薬出版株式会社
評価方法 (E V)	原則として授業時間内に行う平常試験(100%)によって評価点とする。平常試験は授業時間内に2回行い、各講義担当教員が出題し、その総合評価とする。なお、配点の比重は各講義担当の講義回数に比例する。授業時間数の1/5以上を欠席した場合、成績評価は0-60点とする。また、再試験の受験資格は与えない。追・再試験は全ての平常試験終了後から後期授業開始までの期間に行う。
学生へのメッセージ オフィスアワー	障害のある人を対象とした歯科医療の提供は、経験がある一部の歯科医だけが行うものではありません。歯科医師は、その地域における医療連携の中で、障害のある人が適切な医療を受けられるよう配慮する義務があります。このことを念頭に置き、受講して下さい。 オフィスアワー：月曜日～金曜日、8：30～17：30

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/07 (月) 1時限 09:00～10:30	1. 社会と障害者 2. 障害者歯科の基本理念	<p>【授業の一般目標】 障害者のおかれている社会的背景を知った上で障害者歯科の基本理念を修得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 障害の概念を説明できる。 2. 国際障害分類を説明できる。 3. 障害者基本法における障害者について説明できる。 4. ノーマライゼーションの概念について説明できる。 5. バリアフリーの意味を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 障害の意味を説明できる。</p> <p>【学習方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 1 健康・疾病・障害の概念 オ 障害の概念と対応</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題 a 疾病・障害の概念・構造 (社会的関わり) b QOL <生活の質、quality of life> c リハビリテーションの理念 d ノーマライゼーション、バリアフリー f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH> g ニーズとダイヤモンド</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *④社会福祉制度を説明できる。 *⑥障害者のおかれた社会環境を説明できる。 *⑦ノーマライゼーションの考え方を説明できる。</p>	野本 たかと
2014/04/14 (月) 1時限 09:00～10:30	1. 福祉からみた障害 2. 障害者歯科発展の歴史	<p>【授業の一般目標】 社会環境の変化とともに発展していく障害者歯科医療の特殊性を理解するために、背景にある障害者の実態と福祉の概念の変化との関係性についての知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 福祉における障害の認定について説明できる。 2. 障害者に関わる人口動態とその背景について説明できる。 3. 障害者に関わる法律を説明できる。 4. 障害者歯科発展の歴史とその背景について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 社会福祉の概念を説明できる。</p>	伊藤 政之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/14 (月) 1時限 09:00～10:30	1. 福祉からみた障害 2. 障害者歯科発展の歴史	<p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論II 健康管理・増進と予防 8 障害者保健福祉 イ 障害者と社会</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論II 健康管理・増進と予防 8 障害者保健福祉 ア 現状、動向 イ 障害者と社会 ウ 障害者の保健と医療・福祉 総論I 保健医療論 6 社会保障と医療経済 ア 社会保障制度</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-3 歯科医師の責務 *②個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *④社会福祉制度を説明できる。</p>	伊藤 政之
2014/04/21 (月) 1時限 09:00～10:30	具体的な障害の概要と原因疾患	<p>【授業の一般目標】 障害者基本法で定められた障害者とその原因となる障害についての知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 身体障害の概要と原因疾患を説明できる。 2. 知的障害および発達障害の概要と原因疾患を説明できる。 3. 精神障害の概要と原因疾患を説明できる。 4. その他能力障害の原因となる疾患について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 障害者基本法に定められた障害者とは何かを説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VIII 診察 3 障害者への対応 イ 障害者の分類</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論I 保健医療論 1 健康・疾病・障害の概念 オ 障害の概念と対応 総論VI 病因、病態 1 病因論 ア 染色体・遺伝子・発生の異常 イ 環境と疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 *③疾病の概念、種類および予防を概説できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。</p>	野本 たかと
2014/04/28 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と外表奇形	<p>【授業の一般目標】 形態異常および機能異常を伴いやすい障害者に対応するための専門的知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 先天異常と先天奇形について説明できる。 2. 発達期障害と先天異常・奇形について説明できる。 3. 顎顔面形態異常と外表奇形について説明できる。 4. 障害者歯科に関連の深い症候群を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 口腔・顎・顔面の正常発達を説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/04/28 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と外表奇形	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 1 1 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ア 先天異常・後天異常</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常 オ Treacher Collins 症候群 <下顎顔面異骨症> カ Crouzon 症候群 <頭蓋顔面異骨症> キ Apert 症候群 <尖頭合指症> セ Robinシークエンス <Pierre Robin 症候群> ヒ 猫鳴き症候群<5p-症候群> フ その他の先天異常・遺伝性疾患 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 7 顎顔面の変形を来す疾患・病態 エ 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。</p>	野本 たかと
2014/05/12 (月) 1時限 09:00～10:30	初診時の診査と行動観察法	<p>【授業の一般目標】 障害者への歯科医療の提供のための患者評価の重要性を理解し、表出される行動とその背景を正しく評価するための知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 障害と身体発達について説明できる。 2. 初診時に必要な診査項目について説明できる。 3. 初診時の情報収集について説明できる。 4. 発達レベルの診断について説明できる。 5. 行動観察法について説明できる。 6. 障害児・者の行動の特性について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 正常な小児の行動発達の特徴を説明できる。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 1 人体の発生・成長・発達・加齢 キ 成長・発達の評価</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 a 発育区分（出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期） b 発育期の特徴 c 成長発育・発達の特徴（身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達） e 身体成長と精神発達の評価法（Kaup指数、Rohrer指数、BMI、歴年齢、生理学的年齢、発達スクリーニング検査）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *③主要な身体診察を説明できる。</p>	田中 陽子
2014/05/19 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と心理	<p>【授業の一般目標】 障害児・者にみられる行動特性に与える心理学的背景について説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心理発達について説明できる。 2. 障害児・者の心理発達と障害受容の関係について説明できる。 3. 歯科診療に関わる障害児・者の心理特性について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 正常な行動発達について理解し、表出される行動を評価する方法について説明できる。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 2 機能の発達</p>	田中 陽子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/05/19 (月) 1時限 09:00～10:30	障害と心理	<p>エ 情緒・社会性</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 2 機能の発達 ア 運動・感覚機能 イ 認知機能 ウ 言語機能 総論VII 主要症候 1 全身的症候 キ 心理、精神機能 必修の基本的事項 10 診察の基本 ケ 心理・社会的側面についての配慮 a 患者の心理・社会的側面・性格の把握 b 家族背景</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *③主要な身体診察を説明できる。</p>	田中 陽子
2014/05/26 (月) 1時限 09:00～10:30	行動調整と歯科治療 その1 行動調整の基本	<p>【授業の一般目標】 歯科治療における行動調整法についての知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 学習理論について説明できる。 2. 行動調整の基本的な考え方を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 障害と心理特性について説明できる。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VIII 診察 3 障害者への対応 エ 評価</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 2 治療の基礎 コ 障害者の治療 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 f 行動レベル、行動変容</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *①障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 *②障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。</p>	伊藤 政之
2014/06/02 (月) 1時限 09:00～10:30	行動調整と歯科治療 その2 行動調整の実際	<p>【授業の一般目標】 障害者の個々に合わせた行動調整法を選択するための知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 薬物を用いない行動調整について説明できる。 2. 薬物を用いた行動調整について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 障害者の歯科受診行動について説明できる。 障害者の歯科受診行動に与える心理学的背景と環境因子について説明できる。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 カ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療 a 治療環境</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 2 治療の基礎 コ 障害者の治療 6 麻酔、緩和医療</p>	伊藤 政之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/02 (月) 1時限 09:00～10:30	行動調整と歯科治療 その2 行動調整の実際	ウ 全身麻酔法 エ 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 *②障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ⑤障害者に対する基本的な対応ができる。	伊藤 政之
2014/06/09 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者のための予防歯科医療	【授業の一般目標】 健常者よりも口腔疾患や全身疾患の発症のリスクの高い障害者における口腔疾患予防の重要性とその方法についての知識を習得する。 【行動目標（SBOs）】 1. 障害者にみられる口腔疾患の特徴について説明できる。 2. 口腔疾患と全身疾患の関連性について説明できる。 3. 障害者における口腔疾患予防の重要性について説明できる。 4. 障害者における口腔ケアの概念と実際について説明できる。 【準備学習項目】 口腔疾患のセルフケアを説明できる。 【学習方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 6 保健指導 カ ライフステージと口腔機能育成・増進指導 【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 コ 口腔のケア a 口腔衛生管理のための口腔ケア b 口腔機能維持向上のための口腔のケア 16 チーム歯科医療 イ 地域医療でのチームワーク c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携 d 家族との連携 オ 社会生活 f 自立 歯科医学各論 各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 10 管理 イ ホームケア、プロフェッショナルケア ク 栄養指導 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 *③ライフステージにおける予防を説明できる。 *④集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健）を説明できる。 *⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。	田中 陽子
2014/06/16 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験1 解説	【授業の一般目標】 平常試験1までの受容内容を理解し知識を習得出来ているか確認し自己評価ができる。 【行動目標（SBOs）】 1. 障害者の置かれている社会環境について説明できる。 2. 障害者歯科の特殊性について説明できる。 3. 障害者の行動を評価し適切な行動調整法について説明できる。 4. 障害者における口腔疾患予防の重要性とその方法について説明できる。 【準備学習項目】 平常試験1までの講義内容を理解出来る。 【学習方略（LS）】 その他 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 【国家試験出題基準（副）】 【コアカリキュラム】	野本 たかと 伊藤 政之 田中 陽子
2014/06/23 (月) 1時限 09:00～10:30	中途障害者の歯科治療	【授業の一般目標】 歯科治療上、配慮が必要な中途障害についての基本的知識と歯科治療における注意事項についての知識を習得する。 【行動目標（SBOs）】 1. 心疾患患者の歯科治療上の注意事項を説明できる。 2. 神経疾患患者の歯科治療上の注意事項を説明できる。	梅澤 幸司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/06/23 (月) 1時限 09:00～10:30	中途障害者の歯科治療	<p>3. 精神障害者の歯科治療上の注意事項を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ライフステージにおける先天性の障害と後天性の障害について説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 エ 医療情報の収集 オ 診察 カ 評価 総論Ⅹ 治療 2 治療の基礎 コ 障害者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *①代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。 *③主要な身体診察を説明できる。</p>	梅澤 幸司
2014/06/30 (月) 1時限 09:00～10:30	高齢障害者の歯科治療	<p>【授業の一般目標】 有病高齢者への適切な歯科医療の提供のための知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 加齢に伴い発症頻度が高くなる疾患を説明できる。 2. 要介護の原因疾患を説明できる。 3. 高齢障害者に特有な口腔疾患を説明できる。 4. 高齢者における歯科治療上の注意事項を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 生物学的加齢変化および病的加齢変化について説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅹ 治療 2 治療の基礎 シ 高齢者の治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 イ 心臓・脈管疾患 カ 精神・心身医学的疾患 ケ 代謝性疾患 ス 高齢者 各論Ⅵ 高齢者の歯科診療 13 管理に留意すべき全身疾患 キ 要介護の原因疾患 必修の基本的事項 9 主要な症候 ウ 全身的疾患による主な口腔症状 h 糖尿病による口腔乾燥・歯周病の増悪 m 認知症患者の口腔症状</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *①老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 *②老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 *③高齢者に多くみられる疾患を説明できる。 *④高齢者における口腔ケア処置について説明できる。 *⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。 *⑧要介護高齢者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。 *⑨歯科訪問診療について説明できる。</p>	梅澤 幸司
2014/07/07 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食・嚥下機能障害のリハビリテーション その1	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下障害の理解のために、正常な摂食・嚥下機能の知識について習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 食べることの意義を説明できる。 2. 哺乳動作を説明できる。</p>	林 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/07/07 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食・嚥下機能障害のリハビリテーション その1	<p>3. 摂食機能の発達とその獲得順序・段階を説明できる。 4. 摂食・嚥下動作時の各器官の役割を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 心身機能の正常な成長・発達について説明できる。 正常な口腔機能について説明できる。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論X 治療 7 リハビリテーション イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 コ 口腔のケア b 口腔機能維持向上のための口腔のケア 15 治療の基礎・基本手技 へ 口腔機能のリハビリテーション a 機能の回復 <咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能> b 口腔機能管理 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 5 口腔・顎の機能の発達 ア 咀嚼 イ 嚥下 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 ア 下顎位、下顎運動 エ 吸啜 オ 咀嚼 カ 嚥下</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 *②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1.0) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害 *②嚥下障害を概説できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-4) 障害者の歯科治療 ③障害者およびその介護者に対して歯科保健指導ができる。</p>	林 佐智代
2014/07/14 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食・嚥下機能障害のリハビリテーション その2	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下障害の病態と全身疾患との関連を理解し、リハビリテーションに必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 嚥下障害と誤嚥性肺炎の関係を説明できる。 2. 加齢による摂食・嚥下機能の減退を説明できる。 3. 中途障害および高齢障害者に対する摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 頭頸部の解剖について説明できる。 正常な摂食嚥下機能について説明できる。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 s 摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 7 リハビリテーション イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション キ 多職種連携 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 16 摂食・嚥下障害 ア 摂食・嚥下障害の評価・検査 d 検査 b 間接訓練 c 直接訓練、段階的摂食訓練 e 歯科のアプローチ 17 高齢者の栄養管理 イ 食内容の管理 歯科医学総論</p>	林 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/07/14 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食・嚥下機能障害のリハビリテーション その2	<p>総論X 治療 7 リハビリテーション イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション カ 栄養サポートチーム <NST> キ 多職種連携</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。 *⑩摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。 *⑪摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。</p>	林 佐智代
2014/07/24 (木) 1時限 09:00～10:30	障害者のための地域歯科医療システム	<p>【授業の一般目標】 地域での障害者歯科医療の提供のために、地域歯科医療システムについての知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 障害者歯科医療に携わる医療機関について説明できる。 2. 介護保険および介護予防の概要を説明できる。 3. 病診連携、診診連携およびチーム医療について説明できる。 4. 訪問歯科診療を説明できる。 5. 障害者地域歯科医療の在り方を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 日本における医療制度について説明できる。 障害者の地域社会における共生について説明できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 イ 地域保健 a 地域保健法、地域保健体制</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 16 チーム歯科医療 イ 地域医療でのチームワーク a 病診連携 b 診診連携 c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携 d 家族との連携 e 地域連携クリニカルパス</p> <p>歯科医学総論 総論 I 保健医療論 3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源 エ 介護施設 オ 医療関係職種 キ 医療連携、チーム医療 ク 保健・医療・福祉・介護の制度と連携 4 地域保健、地域医療 コ 在宅医療、在宅歯科医療</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑧地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。 *⑨地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-1) 予防の概念 *②プロフェッショナルケア、セルフケアおよびコミュニティケアを説明できる。 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 *④集団レベルの予防と健康管理 (地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健) を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。</p>	梅澤 幸司
2014/09/08 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験2 解説	<p>【授業の一般目標】 平常試験1以降の講義内容が習得されたかを自己評価をすることができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 中途障害者・高齢者の歯科治療について説明できる。 2. 摂食・嚥下リハビリテーションについて述べられる。 3. 障害者歯科における地域医療連携システムについて説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 平常試験1以降の講義内容について理解できる。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p>	梅澤 幸司 林 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/09/08 (月) 1時限 09:00~10:30	平常試験2 解説	【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 【国家試験出題基準（副）】 【コアカリキュラム】	梅澤 幸司 林 佐智代